

平成24年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

舞台芸術等の創造普及活動

- 1 音楽**
ヴォクスマーナ第 27 回～ 28 回定期演奏会
ヴォクスマーナ
- 2 舞踊**
2012 年 地主薫バレエ団公演「コッペリア」全 3 幕
地主薫バレエ団
- 3 演劇**
小規模小学校巡回公演
公益社団法人教育演劇研究協会／劇団たんぼぼ
- 4 伝統芸能の公開活動**
伶楽舎雅楽コンサート no.26
伶楽舎
- 5 美術の創造普及活動**
漆・うるわしの饗宴展—世界の女性作家による漆表現の現在
漆・うるわしの饗宴展実行委員会
- 6 多分野共同等芸術創造活動**
2012 サマー・アート・スクール展覧会&パフォーマンス
クリエイティブ・アート実行委員会

国内映画祭等の活動

- 7 国内映画祭**
第 8 回大阪アジア映画祭
大阪映像文化振興事業実行委員会
- 8 日本映画上映活動**
東日本大震災被災地及び避難地域等における上映活動
(映画応援団—シネマエール東北)
一般社団法人コミュニティシネマセンター

地域の文化振興等の活動

- 9 文化会館公演活動**
クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会
山形テルサ
- 10 美術館等展示活動**
生誕 100 年記念 高山辰雄展
大分市美術館
- 11 アマチュア等の文化団体活動**
第 37 回わたぼうし音楽祭
奈良たんぼぼの会
- 12 アマチュア等の文化団体活動**
キッズミュージカル TOSU 10 周年記念公演
特定非営利活動法人鳥栖子どもミュージカル
- 13 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**
赤瓦と煙出しの里 加賀東谷重要伝統的建造物群保存地区の保存啓発活動
加賀市
- 14 民俗文化財の保存活用活動**
比和牛供養田植の伝承公開
比和町郷土芸能振興会
- 15 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動**
原種養蚕から絹織製作技術保存伝承活動
特定非営利活動法人日本工芸継承協議会



文化芸術振興費補助金助成事業

トップレベルの舞台芸術創造事業

- 16** **音楽** (年間活動支援型)
東京二期会オペラ劇場公演
『こうもり』二期会創立 60 周年記念公演
公益財団法人東京二期会
- 17** **音楽** (公演単位支援型)
東京フィルハーモニー交響楽団
特別演奏会「グレの歌」
公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団
- 18** **舞踊** (公演単位支援型)
大駱駝艦・天賦典式 創立 40 周年公演
キャメルアーツ株式会社
- 19** **演劇** (年間活動支援型)
文学座アトリエの会「NASZA KLASA」
株式会社文学座
- 20** **演劇** (公演単位支援型)
演劇公演「泳ぐ機関車」
劇団栈敷童子
- 21** **伝統芸能** (年間活動支援型)
大槻能楽堂自主公演能
能の魅力を探るシリーズ 日本探訪「日本の歩んだ道・日本人の想い」
公益財団法人大槻能楽堂
- 22** **大衆芸能** (公演単位支援型)
創立 20 周年特別記念公演 SKD・OG スタスレビューファンタジー 2012
有限会社スタス

映画製作への支援

- 23** **劇映画**
奇跡のリング
東宝株式会社
- 24** **記録映画**
天のしずく 辰巳芳子 いのちのスープ
株式会社環境テレビトラスト
- 25** **アニメーション映画 長編**
おおかみこどもの雨と雪
株式会社地図
- 26** **アニメーション映画 短編**
WONDER
合同会社 CALF

参考 芸術文化振興基金による助成
文化芸術振興費補助金による助成

1 ヴォクスマーナ第 27 回～ 28 回定期演奏会

ヴォクスマーナ

助成金額 700 千円

活動概要

ヴォクスマーナは、平成 8 年東京芸術大学声楽科有志で設立した一人パート編成による声楽アンサンブルで、年間 2 回の定期演奏会を開催している。20 世紀以降の現代作品をレパートリーを中心に据えて活動しており、第 5 回定期演奏会からは、同世代の若手作曲家を中心に新作の委嘱を行い、新たなレパートリーの創造と確立を目指している。

平成 24 年度の助成対象活動として採択された活動は、東京文化会館小ホールで開催した平成 24 年 9 月 5 日の第 27 回と平成 25 年 3 月 24 日の第 28 回の年 2 回の定期演奏会である。この 2 回の演奏会のために、日本を代表する若手からベテランまで 4 人の作曲家に新曲の委嘱を行った。今回の委嘱作品もまた、人間の声を使った先進的な作品の誕生となり、現代音楽の可能性をさらに引き出すものとなり演奏会を大いに盛り上げた。



▲ヴォクスマーナ公演

第 27 回定期演奏会は、湯浅譲二の『プロジェクションー人間の声のための』（2009 委嘱作品）の再演、中谷通『12_1/64_1』（2012 委嘱作品）の初演、山根明季子『水玉コレクション No.15』（2012 委嘱作品）初演、鈴木治行『Ups and Downs』（2010 委嘱作品）の再演という構成である。

第 28 回定期演奏会は、再演の渡辺俊哉『晩秋に』（2009 委嘱作品）、伊藤弘之『揺らぐ風を織る』（2010 委嘱作品）、初演の小出稚子『春宵感懐』（2013 委嘱作品）、福井とも子『Let's Dance』（2013 委嘱作品）の構成である。

12 人のヴォクスマーナと指揮者西川竜太という強い個性が、作曲家たちと作品を作り上げていく演奏会であった。観客数も、回を重ねるごとに順調に増加してきている。

助成を受けて

助成を受けることで、金銭的な援助はもちろん大きな支えとなっているが、それ以上に、我々の活動の意義、芸術的内容を認めていただけたことで、メンバー全員が高いモチベーションを維持し続けることができた。

また、定期賛助会員、新作委嘱活動支持会員など、ヴォクスマーナの活動の意義、芸術的内容に対する支持者も増えつつある。

ヴォクスマーナ

Tel:070-5079-4462

2 2012年 地主薫バレエ団公演「コッペリア」全3幕

地主薫バレエ団

助成金額 3,000千円

活動概要

地主薫バレエ団は、文化や時代の違いから難解な部分のあるクラシックバレエを、だれにでも解りやすいバレエとして楽しんでいただき、バレエを通して生きる喜びや活力を感じ、心豊かに幸せになってほしいという願いを込めて活動を続けてきた。

平成24年度助成対象活動として採択された「2012年地主薫バレエ団公演『コッペリア』全3幕」も、「解りやすいバレエ」を実現するため、新たな演出・振付をはじめ様々な趣向を凝らした。

「コッペリア」は、ポーランドの村を舞台に恋人同士のスワニルダとフランツが、変わり者のコッペリウス博士と、彼が作った人形館の窓辺に座る美少女人形コッペリアと関わりながら、結婚するまでを描いた楽しい物語である。

新たな演出としては、第1幕で登場人物の性格をより明確にする表現を加えることで、ドラマ性を強めた。また、フランツの友人が人形館に忍び込み人形と入れ替わる場面を加えることで、第2幕で人形が突然動き出すという物語の不自然さの解消を図った。第3幕ではコッペリウスとスワニルダ達が和解する演出を加えた。コッペリウスはスワニルダ達とともに村の祭りに参加して、村人皆で村の一日を踊りで表現した。

一方で、梅田芸術劇場のメインホールという大きな劇場で、どの席からも見やすいセットにすることに気を配り、衣裳や道具、プログラムに至るまでこだわりを尽くした。上演前に物語の筋を詳しくアナウンスし、幕が開くと同時に観客が物語に惹きこまれるような構成も行った。

来場者は約1,800名におよび、地域へのクラシックバレエの普及という劇団の目標に、さらに近づくことができた。



▲2012 地主薫バレエ団「コッペリア」公演



▲2012 地主薫バレエ団「コッペリア」公演

助成を受けて

バレエ団の掲げる「解りやすいバレエ」の実現には、演出、振付の明確さとともにダンサー達のレベルの高さも重要だが、それだけでは難しい。助成を受けたことで、設備の整った大きな舞台で開催することができ、舞台の広さに見合った美術を活用することで、新演出を実現することができた。

地主薫バレエ団

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 27-16

Tel:06-4977-0095 URL:<http://www.jinushi-ballet.com>

3 小規模小学校巡回公演

公益社団法人教育演劇研究協会／劇団たんぽぽ

助成金額 5,000千円

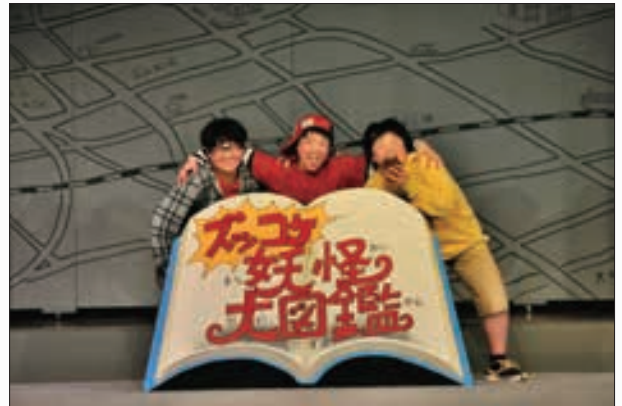
活動概要

我が国では、親が文化・芸術体験にわが子を誘うことはまだ少なく、学校内での鑑賞教室が児童生徒の文化体験の唯一の機会となっている。しかし、地理的要因、経済的要因で小規模校はその機会に恵まれていないのが現状である。劇団たんぽぽは、このような格差是正の一助になりたいと、全国の小規模小学校巡回公演を、系統のかつ継続的に実施してきている。

平成24年4月18日から平成25年2月25日まで、静岡、愛知、滋賀、長野、山梨、北海道、沖縄の各地の小規模小学校の体育館を舞台にした巡回公演が、平成24年度助成対象活動として採択された。小規模な小学校では合同鑑賞とするなどの工夫をして、計画的に演劇体験の機会を提供することが出来、訪問した小規模小学校は、最少校5名から最多校の415名までの150校で、約26,000名の児童が公演を鑑賞した。

公演作品は、原作：那須正幹、脚色：久野由美『ズッコケ妖怪大図鑑』2幕、原作：阿部夏丸、脚色：松下哲子『うそつき大ちゃん』2幕、原作：佐野洋子、脚色：久野由美『100万回生きたねこ』1幕、原作：さねとうあきら、脚色：久野由美の『赤ガラス大明神』1幕の4本である。

劇団に寄せられた感想文からは、子どもたちの生き生きとした様子がうかがえた。子どもたちが、演劇をはじめとする優れた文化芸術に直接触れる機会を持つことは、心豊かでたくましく、人の心の痛みが分かる感性を育てるのに大いに役立つものである。多くの子供たちに豊かな感性を育む演劇公演を享受する機会を提供することができた。



▲ズッコケ妖怪大図鑑（撮影：山崎和男）



▲赤ガラス大明神（撮影：山崎和男）

助成を受けて

小規模小学校巡回公演事業においては、大道具、小道具、衣装、照明機材、音響機材は、毎回設営・取り外しを行う過酷な状態にあり、さらにトラックで舞台装置一式を運搬しなければならない。

助成によって充実した舞台装置の製作・運搬が可能となり、夢のある舞台を作り出したことで、子どもたちに大きな感銘を与えることができた。

公益社団法人教育演劇研究協会／劇団たんぽぽ

〒435-0015 静岡県浜松市東区子安町 323-3

Tel:053-461-5395 URL:<http://www.gekidan-tanpopo.com/>

4 伶楽舎雅楽コンサート no.26

伶楽舎

助成金額 900千円

活動概要

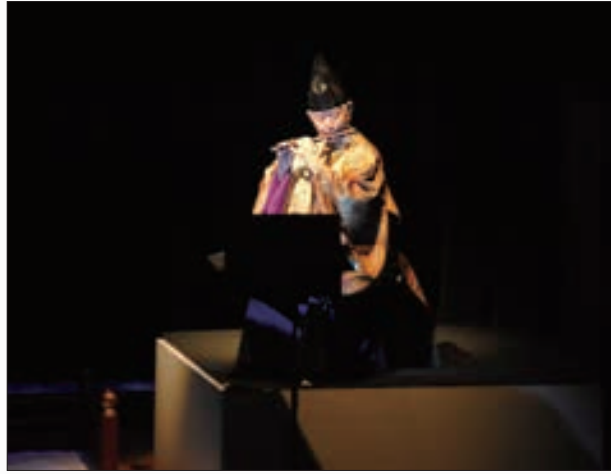
伶楽舎は、雅楽の合奏・研究を目的に昭和60年に発足した。現行の雅楽の古典曲の演奏のほか、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組んでいる。

平成24年度助成対象活動として採択された活動「伶楽舎雅楽コンサート no.26」は、平成24年12月27日、四谷区民ホールで行われた。サブタイトルを『天の音楽 世間の楽 ～源博雅をめぐる～』とし、平安時代中期の貴族で、『新撰楽譜』を撰したことで有名な笛・箏の名手 源博雅に焦点をあてた。雅楽の歴史や時代背景を分かりやすく解説しながら、楽聖・源博雅が生まれた時に天から響いたという音楽を再現すべく試み、周辺の雅楽の演奏を聴いていただく構成であった。

演奏曲も、博雅の作曲とされ現在も演奏される機会の多い曲目「長慶子（ちょうげいし）」、大曲「萬秋楽（まんじゅうらく）」を題材とした二管の龍笛のための「朱雀門梁震（すざくもんりょうしん）」（芝祐靖構成、初演）、「皇響（おうじょう）」より、さらに増本伎共子氏に作曲を委嘱した「博雅の生まれた日に……」（初演）と多彩な内容で構成した。

ゲスト解説の古典文学研究家石田百合子氏が、『古今著聞集』（鎌倉時代編纂）をはじめとする文献など博雅に関する逸話を紹介。雅楽師としての博雅、また、平安時代の雅楽について考察し、多面的に雅楽を伝えることができた。

音楽監督・監修者・解説者・作曲者らによる綿密な打ち合わせにより、演奏会のテーマ、曲目構成面でも充実した内容になった。また、演奏面において、合奏だけでなく、ソロ作品の演奏者の演奏技量も高い評価が得られた。



▲伶楽舎 芝祐靖の演奏



▲伶楽舎 管絃の演奏（皇響）

助成を受けて

助成を受けて、メンバー全員に芸術活動を通して社会に貢献するという高い意識が芽生え、演奏の質に対する責任や向上心もさらに強まり、質の高い演奏会を開催させることができた。また、新曲の委嘱初演に関して、助成は何より強い後押しとなり、意欲的な活動に取り組みやすくなった。

一般社団法人伶楽舎

〒160-0012 東京都新宿区南元町 19-2 千日谷会堂内
Tel:03-5269-2011 URL:http://reigakusha.com

5 漆・うるわしの饗宴展 —世界の女性作家による漆表現の現在

漆・うるわしの饗宴展実行委員会

助成金額 900千円

活動概要

漆芸は、伝統技術を基礎としているため伝統的形式に縛られやすいが、漆素材の造形性・装飾性に幅広い表現の可能性がある。その特性を活かし、現在、日本・中国・韓国・東南アジア・欧米において独自の漆芸表現が展開されている。

平成24年度助成対象活動として採択された活動、「漆・うるわしの饗宴展」では、伝統ある素材や技法を使用しながらも、ひと味違う革新の表現を行っている女性の漆作家をクローズアップし、今までにない新しい漆表現を提案した。

平成24年9月14日の東京会場山脇ギャラリーから始まり、10月6日からの京都会場では、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで、シンポジウムとパフォーマンスも交え開催し、10月27日からの福島会場では、喜多市美術館を会場にパフォーマンス・アーティストトークも行い、11月25日までトータル53日間の活動を終了した。

展示内容は、各国の漆表現の現在と変遷、各国の女性漆作家の漆表現コンセプトとプロフィール等で、展示作品すべてを収録した図録の販売、シンポジウムや参加作家 ShaShaHigby の漆装身具による舞踏パフォーマンスなども行った。

それぞれ情勢の異なる国、異なる漆文化に生きる女性漆作家が漆をどう捉え、この時代をどう見つめているのか、漆表現の伝統と革新の挑戦と交差を試みる取り組みであった。相互理解を深め、新しい漆表現による多様な文化を発信することができた。

また、福島展での活動を通し、被災地の方々の現状と復興の様子や、被災者への思いが、作家を通して各国へ伝えられたことは、今後あらたな震災復興の助けにもつながることになると考えている。



▲東京展展示会場



▲KyotoArtistTalkの様子(京都)

助成を受けて

9カ国の出品作家の作品輸送費や旅費を出すことができたことにより、シンポジウムをはじめとする交流活動に多くの作家が来日し出席したことは、工芸史上類を見ない展開であった。ポスター・チラシ、日英の両言語による図録や報告書等制作も充実したものとすることができた。また、多くの雑誌や11月11日放送のNHKテレビ「日曜美術館アートシーン」にも取り上げられ反響を呼んだ。

漆・うるわしの饗宴展実行委員会

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350 宇都宮大学教育学部工芸研究室
Tel:028-649-5361(直通)

6 2012 サマー・アート・スクール展覧会& パフォーマンス

クリエイティブ・アート実行委員会

助成金額 1,400 千円

活動概要

クリエイティブ・アート実行委員会は、当初障害を持つ人々と障害のない人達が共に創造することを通して、新たなアートの可能性を探ることを目的として平成2年に設立された。その後、障害のある方々だけでなく、高齢者や不登校の子ども達、また、外国人の方達も含め、年齢や性別、民族の違いにかかわらず様々な人々にまで対象を広げ、人々のアイデンティティを表現するアート活動への参加を通して、地域社会の活性化を図ってきた。

平成24年度助成対象活動として採択され、都内7か所において障害のある人たちとプロのアーティスト達が、共に交流し、その中から新たな表現方法を見出し、それを作品として昇華させたパフォーマンスや美術作品を公開した。

7月29日、北とびあにおいて、ゲストパフォーマーとして舞踊家の鈴木ユキオを迎え、ヴォルフガング・シュタンゲの振付により、身体・知的障害のある人とともに、型やステップに捉われない創造的なダンスパフォーマンスを披露した。

8月12日には月島教育会館で、俳優であり演出家である花崎攝とともに、演者だけではなく観客も参加して、現実の問題をテーマとした物語のあらすじをその場でクリエイションする、フォーラム・シアターの手法を用いた演劇を行った。

音楽分野では、作曲家のフェルナンド・パラシオと、楽曲の構造を理解し、互いの個性を活かし合うコミュニケーションによって生み出された、音と動きのパフォーマンスを展開した。

また、知的障害のある人たちと絵本作家・はたよしこが互いの創造性を刺激し合い、自らの自由な表現を追求して生み出した絵画作品や、視覚障害のある人たちと造形作家・西村陽平による、触覚にフォーカスして創作した造形作品の展覧会も実施した。

いずれも、プロのアーティスト達が積極的にかかわることによって、また、障害のある人達の創造性に触発されることによって、アートの新しい可能性を引き出したものとなった。



▲ダンスパフォーマンス



▲ギャラリー TOM 展覧会

助成を受けて

毎年、アーティストや内容に新たな試みを加えた活動を、入場料収入だけで実施することは大変難しい。そのような状況ではあるが、助成を受けられたことで活動を実施することができるだけでなく、活動の意義や内容への信頼が高まり、東京都教育委員会との共催や、多くの協力機関・団体の後援を得ることができ、良い協力関係を築くことができた。

クリエイティブ・アート実行委員会

〒107-0062 東京都港区南青山 4-6-10-101

Tel:03-3479-8535 URL:<http://www.musekk.co.jp/>

7 第8回大阪アジア映画祭

大阪映像文化振興事業実行委員会

助成金額 8,000千円

活動概要

平成17年にスタートした大阪アジア映画祭は、大阪での優れたアジア映画の鑑賞機会の提供と、映像制作活動促進支援等を通して、大阪をアジア映画の情報発信拠点、映画製作拠点都市にするという目的で毎年3月に開催。暉峻創三プログラミングディレクターの下、アジア映画最新作のコンペティション部門、特別招待部門、そして特集企画など、様々な角度から、より豊かで質の高いアジア映画を選定し、上映と交流活動を行い、平成24年度の助成対象活動として採択され、今回で第8回目を迎えた。

今回は、特にプレオープニングイベントを拡充し、昨年観客賞を受賞した『セデック・バレ』、東宝株式会社の新作『だいじょうぶ3組』の話題作2本の上映会、市内2か所でのポスター展、書店とタイアップしたアジア映画ブックフェアなどを行い、本番の映画祭へ向けて雰囲気盛り上げた。

映画祭初日は、オープニングイベントとして、メイン会場のシネコン・梅田ブルグ7にアジアの巨匠ジョニー・トー監督を迎え、ジャパン・プレミアの『毒戦』を上映した。同時に、市内5か所の映画館において、ゲストトーク、Q&A、サイン会など観客との交流を図るプログラムを展開した。このような取り組みから、地元関西はもとより遠方からも多くの参加者を迎え、平成25年3月8日から17日の本番の映画祭での観客数も昨年に引き続き増加した。

また、映画祭に参加した内外の映画人のゲストは約100人となり、上映した作品は、15の国や地域から出品された48作品、そのうちの29作品がジャパン・プレミア（一部、ワールド・プレミア）作品であった。

コンペティション部門においても、13作品すべてがジャパン・プレミアで、すべての作品の関係者が来日し、観客とゲストとの交流、ゲスト同士の交流などが活発に行われ、新たな映画製作に向けての建設的な意見交換も行われた。



▲オープニング作品『毒戦』で舞台挨拶されるジョニー・トー監督



▲グランプリなど各賞が発表されたクロージング・セレモニーでの記念写真

助成を受けて

上映した全48作品のうち、29作品（コンペティション部門13作品を含む）がジャパン・プレミアであり、アジア映画の最前線に触れることができる映画祭となった。これらのほぼ全てが未公開作品であったため、字幕翻訳が必要であったが、助成を受けることにより、水準の高い字幕翻訳をつけることができた。観客からも、上映作品が多様で、質も高いとの評価が得られた。この映画祭は、より豊かで質の高いアジア映画を大阪から日本全国へ、そしてアジアに向けて発信することができた。

大阪映像文化振興事業実行委員会

〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町4番B-801（NPO コミュニティシネマ大阪内）

Tel:06-6373-1211 URL:<http://www.oaff.jp>

8 東日本大震災被災地及び避難地域等における 上映活動（映画応援団 - シネマエール東北）

一般社団法人コミュニティシネマセンター

助成金額 7,000 千円

活動概要

一般社団法人コミュニティシネマセンターは、日本各地のミニシアターやシネマテーク（公共の映画専門館）、映画祭、シネクラブ（自主上映）といった地域の公共上映を推進するための活動を行っている。平成 8 年の「映画上映ネットワーク会議」開催を端緒として、全国の上映者のネットワーク作りを進めながら、任意団体として様々な活動を展開、平成 21 年 4 月に一般社団として法人化した。

「シネマエール東北」は、東日本大震災の後、「被災地に映画でエールを送りたい」という全国の上映者の思いを伝えるために、コミュニティシネマセンターが、みやこシネマライン、特定非営利活動法人 20 世紀アーカイブ仙台、山形県映画センター、山形国際ドキュメンタリー映画祭とともに進めたプロジェクトで、東日本映画上映協議会（日本映画監督協会 / 映職連、ジャパン・フィルムコミッション）の共催も得ることができた。

それぞれの地元である岩手県、宮城県の地元を中心とした上映会を行い、山形県からの 2 団体は福島での上映会を担当し、平成 23 年 6 月に開始してからの約 2 年間で 400 回を超える上映会で、1 万 5000 人を超える人たちに映画を楽しんでいただくことができた。

平成 24 年度は、助成対象活動として採択され、岩手、宮城、福島の三県の沿岸部を中心に約 30 に及ぶ市町村、124 会場で、のべ 161 回の上映会を開催し、参加者は約 8,000 人に達した。これまでに上映した作品は 50 作品を越えているが、そのほとんどが、松竹、東宝、東映、東和プロモーションなどの映画会社から無償で提供されたもので、上映する会場の状況、参加者の年齢層や希望に応じた映画を上映することができた。

平成 23 年度は避難所や仮設住宅での小規模な上映会がほとんどであったが、東日本大震災から 1 年余りが経過した平成 24 年度には、被災地域の復興・復旧に伴い、公共文化施設の使用も可能となり、被災地の文化事業、祭りやイベントの再生、復活を支援するための活動も実施することができた。サイレント映画の活弁・演奏付上映会、監督や俳優をゲストに迎えた上映会や野外上映会など、いずれも 100 人を超える観客を集めることができた。

今回は特に、宮古市、石巻市、釜石市等で、新しい街づくり・文化事業にかかわる人たちとともに事業を成し遂げた経験は、次年度からの活動の在り方を考える上での大きな指針となった。



▲仮設住宅の集会所での上映会



▲小学校の体育館での上映会

助成を受けて

上映会の 8 割以上が仮設住宅等での小規模な入場無料の上映会であり、活動資金を入場料収入でまかなうことは不可能である。個人の負担や募金だけでは活動資金は非常に不安定となり、被災者に寄り添う支援をしたいという気持ちはあってもできることが限られてしまう。助成を受けたことで、岩手、宮城、福島での活動を安定的なものとすることができ、160 回もの上映会を開催することが可能となった。

一般社団法人コミュニティシネマセンター（シネマエール東北東京事務局）

〒150-0044 東京都渋谷区円山町 1-5 キノハウスビル 5 階

Tel:050-3535-1573 URL:<http://cinema-yell-tohoku.com/>

9 クラシカル・プレイヤーズ東京 演奏会

山形テルサ

助成金額 600千円

活動概要

山形テルサは山形市直営の施設で、山形市民の教養の向上及び文化交流の振興等を推進するとともに、市民生活の向上と福祉の増進を図るため、幅広いニーズに応じた事業の企画、提供を行っている。

平成24年10月、バロック・古典派の楽曲が作曲された当時の楽器（オリジナル楽器）を用いて、その時代背景と作曲家の真髄をともに伝える演奏活動を行っているクラシカル・プレイヤーズ東京の演奏会を開催した。

演目は、クラシック専門ホールであるテルサホールの特性を最大限活かせるよう、W.A.モーツァルト「交響曲第25番ト短調K.183」、W.A.モーツァルト「ピアノ協奏曲第20番二短調K.466」、G.ビゼー「交響曲八長調」にし、指揮は有田正広氏、ソリストには、フォルテピアノ演奏者の仲道郁代氏を迎え、本格的な古楽器による演奏会となった。

また、この演奏会は、東京芸術劇場との共同制作公演で、山形テルサでは初の試みとなる他県会館との連携事業であり、公演の成功は、良質の音楽文化を山形の地域住民に広く提供したばかりでなく会館間の連携事業として確固たる実績を残すことができた。



▲クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会（オリジナル楽器使用）



▲ソリスト：仲道郁代（フォルテピアノ）

助成を受けて

自主財源だけでは企画がなかなか難しいジャンルへ挑戦することができ、これまでの公演企画では成しえなかった演奏会を実施することができた。また、チケット料金を低料金に設定することができ、多くの地域住民へ良質の演奏鑑賞機会を提供できた。

山形テルサ

〒990-0828 山形県山形市双葉町 1-2-3

Tel:023-646-6677 URL:<http://www.yamagataterrsa.or.jp>

10 生誕 100 年記念 高山辰雄展

大分市美術館

助成金額 1,000 千円

活動概要

大分市美術館は、市民への優れた美術鑑賞の機会の提供、市民の自主的・創造的文化活動の促進、本市独自の文化の創造と発信を目的とした活動の一環として、平成 24 年度は、大分市出身の日本画の巨匠、高山辰雄の生誕 100 年を記念して、“新たな日本画の創造”を目指し、日本画の可能性に果敢に挑戦した若き日の高山に焦点をあて、前半期（1934 年～ 1968 年）の画業の展開を紹介した。

この企画を充実させるためには、県内外の美術館等に協力を求め、大分県立芸術会館からは、「午後」、「瀬戸内海」、「気」など多数の作品の貸し出しの協力を受け、県外からも「裸婦」（財角川文化振興財団所蔵）や、「少女」（個人所蔵）などの代表作を借用し、主要作品をほぼ網羅した展示を行うことが可能となり、今まで顧みられる機会の少なかった初期の高山芸術の全貌を紹介することができた。

また、若き日に家計を補うため夫婦で手掛けた絵本原画や双六、塗り絵等の作品や、高山が実際に使用した道具類の展示を行い、併せて、会期中の平成 25 年 2 月 2 日には、高山由紀子（作家長女）氏を招き、娘の見た父親としての側面も紹介する講演会を開催することにより、高山芸術に対する幅広い市民の興味を喚起することができた。

平成 24 年 12 月 20 日から平成 25 年 2 月 3 日までの会期中の総来場者数は、通常の展示会の約 1.5 倍以上となり、郷土の芸術家に寄せる関心の大きさに応えることができた。



▲ ボランティアによる展示解説



▲ 講演会

助成を受けて

助成を受けたことによる効果として第一にあげるべきは、作品の借用範囲を拡大することができた点である。これにより、特に県外からの作品借用数が増え、展示内容の充実を図ることができた。

また、広報活動についても、幅広く広報・宣伝を図ることが可能となり、多くの入館者を獲得することができた。

大分市美術館

〒 870-0835 大分県大分市大字上野 865

 Tel:097-554-5800 URL:<http://www.city.oita.oita.jp>

11 第37回わたぼうし音楽祭

奈良たんぼぼの会

助成金額 2,000千円

活動概要

奈良たんぼぼの会は、昭和48年「たんぼぼの会」として発足し、障害のある人たちの芸術文化活動などの創造的活動を支援し、ともに生きる社会の実現をめざして活動を行っている。「わたぼうし音楽祭」は、昭和51年から開催しており、平成24年で37回を数えた。この音楽祭の当初の目的は障害者理解であったが、全国の障害のある人から寄せられた詩をメロディにのせ生命の尊さや人間の素晴らしさを歌う活動が続けるうちに、作品には大切なものを忘れがちな社会へのメッセージがあふれていることに思い至るようになった。こうして私たちの活動は、「福祉」という視点から、「芸術」「文化」さらには「人権」「平和」へと広がっていった。

平成24年度助成対象活動として採択された第37回わたぼうし音楽祭は、7月29日奈良県文化会館国際ホールにおいて開催され、全国の障害のある人から作詩の部約500点、作詩作曲の部約300点が寄せられた。その中から8点の入選作品が選ばれ、わたぼうし大賞、文部科学大臣賞、奈良県知事賞、奈良市長賞などの表彰を受けた。

また、中国から「上海市障害者芸術団」25名を特別ゲストに迎え、障害のある人の舞台芸術活動を通じた可能性を紹介したほか、アメリカからは片手で演奏できるサクスを開発・演奏しているデビット・ナブさんをゲストに迎え演奏も披露していただき、国際色も豊かなステージとなった。

今回の活動には、ボランティア出演者30名、公募による出演者55名、アマチュアの客演者52名を含む総数約160名が参加し、観客数は約1,200名であった。

誰もが人間らしく生きられる社会とは、障害のあるなしや、どこに住んでいるかにかかわらず、世界中の人の普遍の願いである。私たちは、わたぼうし音楽祭の活動を通して今後も社会に新しい価値を提案し続けていく。

※「作詩」の「詩」は、「言」を司どる「詞」でなく、「言」を光り輝かせる「詩」（サンスクリット語で「寺」は光り輝くもの）というところにこだわり使用しています。



▲わたぼうし音楽祭エンディングの様子
(撮影：保坂高明)



▲特別ゲスト 上海市障害者芸術団
(撮影：保坂高明)

助成を受けて

社会から「障害者音楽祭」というレッテルを貼られ、単に障害者への福祉だけという狭い視点で見られがちであったが、助成を受けられたことで「芸術」「文化」の視点が加えられ、さらには「人権」「平和」へと視野が広がり社会的に大きな評価をいただいた。また、日本のみならず海外の障害のある人たちの芸術文化活動も発展し、社会参加を果たすようになってきており「WATABOSHI」は世界の合言葉となっている。

奈良たんぼぼの会

〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3-25-4

Tel:0742-43-7055 URL:<http://popo.or.jp>

12 キッズミュージカル TOSU 10 周年記念公演

特定非営利活動法人鳥栖子どもミュージカル

助成金額 1,900 千円

活動概要

ミュージカルという表現活動を行うことにより、地域から質の高い文化を発信していくとともに子どもの健全育成を目的として、平成 15 年から毎年キッズミュージカル TOSU のオリジナル作品の公演を行っている。

参加者は、市内の小中学生を中心に公募し、約 1 年間の練習を重ねて舞台公演に臨んだ。

舞台衣装や小道具製作、本番の舞台進行、メイクや衣装転換等を保護者が担当し、大道具や舞台装置は卒業生や市民の有志が支える手作り舞台である。

平成 24 年は、キッズミュージカル TOSU 結成 10 周年で、その記念公演が平成 24 年度助成対象活動として採択され、平成 24 年 12 月 16 日博多座、平成 25 年 2 月 16 日、17 日鳥栖市民文化会館で開催した。

博多座では、荒れた学校がミュージカルを授業に取り入れたことで立ち直っていく「主役は、ワタシよっ♪ DELUXE」を、鳥栖市民文化会館では、キッズミュージカル TOSU のオリジナル作品を歌と踊りでつないだレビューショー「REVUE THE KIDS TOSU」の公演であった。

この公演では、4 月に募った新団員や、今までスタッフとして協力してくれた卒業生 15 名のうち 12 名も出演し、みんなで力を合わせて記念公演を盛り上げていった。

初めての県外公演となった博多座は、九州で一番大きい都市福岡の芸術活動の中心地である。果たして自分たちの舞台が認められるか心配であったが、博多座からは、「レベルが高い、毎年来てほしい」とうれしい要望をいただいた。

本番に臨むまでの、11 か月間専門の講師から歌とダンス、演技のレッスンを受け、異年齢の子どもたちが協調し一つの作品を作り上げていった。子どもたちは、自ら努力する過程で自信をもち生きる力を身につけていく。

大人たちの積極的な参加が地域にミュージカルという文化を定着させ、鳥栖から質の高い文化を発信していくうえで大きな支えとなっている。



▲「虹のアドレス」 クィーンを讀める歌
(撮影：森 智明)



▲「主役はワタシよっ♪」 女王様
(撮影：森 智明)

助成を受けて

助成を受けたことで、音響・照明等にも最善を尽くすことができ演出効果も上がり、10 周年の節目の記念すべき芸術性の高い公演とすることができた。初の県外公演でも、これほどの劇団は少ないと絶賛され大成功とすることができた。

特定非営利活動法人鳥栖子どもミュージカル

〒 841-0051 佐賀県鳥栖市元町 1228-2

Tel:0942-55-1000 URL:<http://kmtosu.jp/>

13 赤瓦と煙出しの里 加賀東谷重要伝統的建造物群保存地区の保存啓発活動

加賀市

助成金額 200千円

活動概要

加賀市は、平成17年度に加賀市伝統的建造物群保存地区保存条例を制定、平成22年度には「加賀市歴史文化基本構想」を策定し、地域住民とともに、地域の歴史や文化を活かした地域づくり活動に取り組んできた。

平成23年11月に重要伝統的建造物群保存地区に選定された加賀東谷地区は、荒谷・今立・大土・杉水の4つの集落で構成される。藩政期より製炭業で栄え、明治前期から昭和30年代までに建てられた赤瓦に煙出しを備えた主屋が周辺の田畑や豊かな自然環境とともに残り、山林に包まれた静かで美しい山村の風景を保っている。

地区の保存と活性化のために平成23年度より実施してきた「地域づくりワークショップ」を平成24年度も引き続き開催したのに加え、新たに、地区に残された民具の調査を行い、その成果を活かした一層の山村振興を図ることを試みた。

活動のひとつとして、平成25年3月30日保存地区の拠点施設である山中温泉ひがしたに地区保存会事務所において、地域住民・地区保存会をはじめ、金沢工業大学や県内重要伝統的建造物群保存地区（加賀橋立、白山市白峰）の協力を得、地区内の伝統的建造物や周辺環境等の資源を活かした地域づくりを考えるワークショップを開催した。「重伝建地区の“みやげもの”を考える」と題したワークショップでは、日頃販売している“みやげもの”を持ち寄ってプレゼンテーションや品評会も行い、各保存地区の住民や一般参加者の活発な意見が交わされた。

また、郷土民俗の専門家や地域住民の協力を得て、かつて日常生活に使用してきた道具とその使用法などを、保存地区4町のうち大土町に焦点を当て15回の調査活動を行った。聞き取り等の調査成果は民具ごとの個票にまとめ活用している。この民具調査を行ったことにより、伝統的な建物や景観の保存のみならず、そこで使われた生活用具と、それにまつわる思い出を一緒に保存・活用することが可能となった。

さらにより広い情報発信を図るため、保存地区の英語版パンフレットも作成した。



▲地域づくりワークショップ
 （重伝建地区の“みやげもの”を考える）



▲加賀東谷（大土町）の棚田と民家

助成を受けて

加賀東谷での取り組みを紹介するにあたり、本助成を受けているということはPR時の強みとなった。特にワークショップ開催においては、助成のおかげで協力範囲を市外に広げることが可能となった。重要伝統的建造物群保存地区同士の交流範囲が拡大したのみならず、地域住民が他地区と自分の集落を比較検討ができるようになり、郷土に対する誇りや愛着が高まり、地域づくり活動を継続することの大切さを認識することにもつながった。

加賀市

〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町ニ 41

Tel:0761-72-1111(代表) URL:<http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>

14 比和牛供養田植の伝承公開

比和町郷土芸能振興会

助成金額 1,000千円

活動概要

比和町は、古くは「古事記」にも登場する比婆山の裾野に位置し、豊かな自然と先人たちの知恵を多く受け継いでいる地域である。

比和牛供養田植は、信仰と音楽と労働の三要素を含む大がかりな神降ろしの儀式に用いられ、鳴り物揃いで賑やかに行われた儀式田植であり、700年前伯耆大山の社人をこの地に迎え太鼓踊りの技法を伝えたのが起源とされている。比和の牛供養田植では神降ろしの歌曲として「大拍子」を伝承しており、太鼓打ちの技法が原形のまま伝承されているのが特色で、昭和46年に広島県無形民俗文化財に指定されている。

牛は農宝として家族同然に大切に扱われており、牛供養の際には、供養牛は神仏混淆のお祓いを受け、背中に「農宝」の幟をつけて代掻きをする。

永く郷土に伝承されているこの行事を、先祖伝来の貴重な財産として4年に1度伝承公開している。市民はもとより、小・中学校の協力も得て実施しており、市民相互の親睦と心のふれあいを深める核となる行事である。

平成24年5月27日、露払いを先頭に綱布令・代宰領等・供養牛・大太鼓・小太鼓・早乙女による供養田まで迫力ある道行が始まった。供養田では早乙女の苗取りに続き、祈禱を受けた20頭の供養牛による勇壮な代掻きを行い、サゲと早乙女の掛け合い調子で歌われる「大拍子」「植拍子」に合わせ田植えが行われる。15アールの田圃すべてを植え終了となった。



▲供養牛20頭による勇壮な代掻き



▲サゲと早乙女による掛け合い調子で進む田植

助成を受けて

親子2代の出演者も多く後継者も順調に育っており、今後も長く伝承してくれるものと期待している。助成を受けたことで宣伝効果が大きく、集客の力となっており、大勢の観光客の見守るなか郷土の伝承技法を披露でき後継者の育成の大きな励みとなっている。

比和町郷土芸能振興会

〒727-0301 広島県庄原市比和町比和 1342

Tel:0824-85-2698

15 原種養蚕から緋紬織製作技術保存伝承活動

特定非営利活動法人日本工芸継承協議会

助成金額 1,800千円

活動概要

特定非営利活動法人日本工芸継承協議会は、平成17年に伝統工芸技術の保存・振興・継承を目的に設立された。

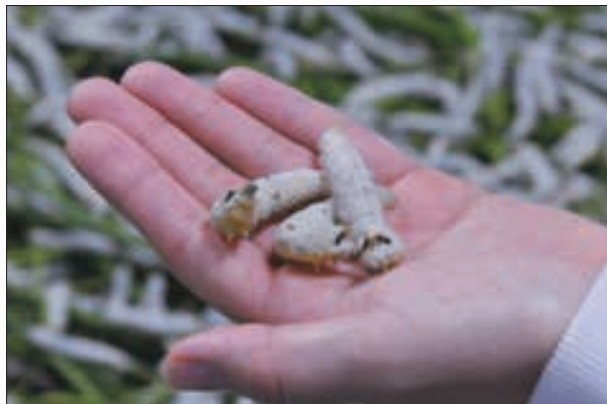
平成21年度からは、宮崎県の伝統工芸品「宮崎手紬」の技術の保存、振興、継承を目的として、その魅力を国内外に紹介する工芸作品の展示会や文化講演会の開催、また次代の紬織物製作者の育成を支援する活動を行っている。

「宮崎手紬」は、沖縄から戦争疎開によって宮崎に伝わり宮崎で独自の発展をし「綾の手紬」として世に知られるようになり、昭和59年3月宮崎県指定伝統的工芸品となった。また、「天然灰汁発酵建て藍染技法」は、平成20年2月に綾町指定無形文化財となっている。

「綾の手紬」は、蚕の原種（小石丸）の養蚕から糸作り織物まで一貫して制作するのが特徴で、原料から製品まですべての行程にわたっての習得を目指すものであり、技術伝承には最低でも2年の時間を要するものである。修了後は独立した工房を持ち活動できるように、その運営方法などのアドバイスも行っている。

小石丸蚕の蚕種製造を人工ふ化技術から稚蚕飼育・壮蚕飼育まで、さらに桑園の管理も含め4月から3月まで60回。製糸技術の伝承では、諏訪式多条繰糸機による座繰り法やずり出し紡ぎなどを10回。天然灰汁発酵建て藍染技法の研修では、染料（すくも）製作、灰汁取り、藍の仕込管理、藍染め、絞りなどの10回。緋織物技術の研修では、図面、緋括り、製経、草木染め、織り、湯のしの70回で、すべての行程を1年間150回の研修で伝承していった。

平成24年度も新規受講生を迎え実施し、計画どおり養蚕から織物まで一貫した制作技術の伝承ができた。また、年度の最後平成25年3月には3年目の研修生の作品展示を行ない、技術の伝承に尽力した講師たちへ受け継がれた技術の成果を披露した。



▲小石丸5歳蚕



▲経糸の巻き取り

助成を受けて

技術の伝承には時間も経費もかかるものである。助成を受けたことで郷土の貴重な高度な技術を短期間で伝承することができ、後継者を育てることができていることを大変ありがたく思っている。

特定非営利活動法人日本工芸継承協議会

〒880-1302 宮崎県東諸県郡綾町北俣 4245-6

Tel:0985-30-7890

16 東京二期会オペラ劇場公演『こうもり』 二期会創立 60 周年記念公演

公益財団法人東京二期会

助成金額 21,000 千円

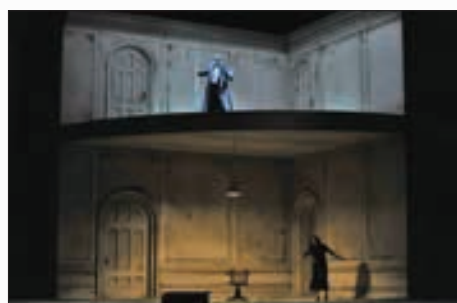
活動概要

公益財団法人東京二期会は、年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けています。

- 二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『スペイン時間』『子どもと魔法』二期会創立 60 周年記念公演 助成金額：15,900 千円
- 東京二期会オペラ劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』二期会創立 60 周年記念公演 助成金額：28,600 千円
- 東京二期会オペラ劇場『パルジファル』二期会創立 60 周年記念公演 助成金額：35,500 千円
- 二期会創立 60 周年記念公演 オペラ『メデア』日本初演 日生劇場開場 50 周年記念 読売日本交響楽団創立 50 周年記念事業 助成金額：17,900 千円



▲東京二期会オペラ劇場『こうもり』二期会創立 60 周年記念公演



▲東京二期会オペラ劇場『パルジファル』二期会創立 60 周年記念公演

公益財団法人東京二期会は、昭和 27 年に声楽家集団「二期会」として発足し、我が国におけるオペラ界の中核として活躍してきた。その後、活動内容をオペラに限定することなく、研修所運営、コンサート・リサイタルの開催など、声楽全般に拡大し、我が国芸術文化の発展に寄与することを目的に事業を展開している。発足以来 60 年間、ドイツをはじめ様々な国のオペラ作品を上演してきたが、「オペレッタ」についても、そのジャンルを日本に根付かせてきたと自負している。

今回取り上げたヨハン・シュトラウス作のオペレッタ「こうもり」は氏の作品の中でも傑作として知られるものである。本作の総合芸術としてのオペレッタの魅力の高い芸術水準で実現すべく 12 年ぶりに日本語訳詞で新制作した。

演出には演劇界で俳優としても活躍し古典の舞台でも多くの支持を集めている白井晃氏を起用。演出自らが台本を新規に書き下ろしたことで、時代に即した形で伝統の日本語訳詞を高度に進化させることが可能となった。

音楽面では、バイロイト音楽祭での実績を持つ大植英次氏の指揮と東京都交響楽団の演奏により、音楽と日本語歌詞との融合が行われ、伴奏にとどまらないダイナミックかつシンフォニックな音楽が実現した。

声楽家についてもオーディションで若手を抜擢。要所に我が国トップクラスの声楽家を配した。これらの取り組みにより広い世代の観客に会場にただけでなく、初めて歌劇に触れる子どもやシルバー世代の方にとって気楽に足を運びやすい公演であったとの声も多く寄せられた。

助成を受けて

充実した稽古期間が確保され、より充実した創造活動を行うことが可能になった。加えて、スペクタクル性に富んだ装置、アイデアに溢れた衣裳の制作、小道具の新規調達など、新演出の創造性を高めることが可能になった。

また、オーケストラとの舞台稽古や、装置・衣裳・照明のデザインなどとの統一と融合など、劇場でしか行えない仕込み、舞台稽古等の仕上げを行うことが可能となった。

公益財団法人東京二期会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-25-12

Tel:03-3796-1818 URL:<http://www.nikikai.net/>

17 東京フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会「グレの歌」

公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

助成金額 11,400千円

活動概要

公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団は、明治44年に名古屋で発足した音楽隊を母体として活動を続け平成23年、日本のオーケストラとして初めて100周年を迎えた。

現在は、新国立劇場における「オペラ・バレエ」と「シンフォニーコンサート」を両立させる日本で初めてのオーケストラとして幅広い演奏活動を展開している。

平成24年度助成対象活動として採択された本活動は、当初、平成23年3月に、当楽団創立100周年記念特別演奏会として実施予定であったが、東日本大震災によって中止を余儀なくされ、復興への願いも込めた復活公演となった。

今回取り上げたシューベルク作曲「グレの歌」は、通常2つのオーケストラを必要とする巨大な作品で、演奏機会も稀である。しかし尾高忠明の指揮の下、楽団員数160人を有する当楽団が総力を結集することで、我が国では珍しい“単独オーケストラ”での公演として高度な芸術水準を実現することができた。

また、「グレの歌」を初演から100周年という大きな節目に取り上げたことで、この作品がクラシック音楽史上において20世紀の音楽の可能性を大きく広げたモニュメンタルな創造であることを明確に示すこととなった。そして当楽団が日本のオーケストラとして、初めて100周年を迎えたという日本における西洋音楽の歴史と、声楽面も含む日本の演奏界100有余年の成果を国内外へ発信する機会となった。



▲オーケストラ151名、合唱120名、ソリスト5名、指揮者、総勢277名



▲震災の影響により中止となった「創立100周年記念公演」の復活

助成を受けて

本公演は、ソリスト5名、合唱120名、オーケストラ151名と大規模な編成で演奏されるため、十分な空間のリハーサル会場を確保する必要があり、経費面での負担は大変大きい。

助成を得られたことにより4日間のリハーサル全てを公演会場となるオーチャードホールのステージで行うことができた。それにより演奏者は表現に集中し、演奏の密度と芸術的水準を格段に高めることができた。

オーケストラとしても、20世紀音楽の豊富なレパートリーに取り組み、新たな視点や創造性を見出すことができた。

また、経費規模の大きい公演だったにも拘わらず、広くアピールすることができたことで、通常の定期演奏会と同水準の料金設定で開催することができた。

公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 8階

Tel:03-5353-9521 URL:<http://www.tpo.or.jp/>

18 大駱駝艦・天賦典式 創立 40 周年公演

キャメルアーツ株式会社

助成金額 10,600 千円

活動概要

大駱駝艦は磨赤兒によって昭和 47 年創立され、平成 24 年 40 周年を迎えた。その間、磨赤兒が提唱する一人一派を実践し、数多くの舞踏集団や舞踏家を輩出、現在もカンパニー内で様々なプロジェクトを立ち上げ、多くの作品を創作・発表し続けている。

磨赤兒は忘れ去られた身振り・手振りを収集・構築し、世界が直面する様々な出来事を作品化。舞台芸術が何を世に問うことができるのかを追い求める活動を行ってきた。

創立 40 周年の新作「ウイルス」は、幅広い年齢層に支持され、大きな衝撃と感動を生み出した。磨赤兒が作品に込めた思いが舞台上で繰り広げられ、それを見つめる観客の眼差しの間に、もう一つの空間があり、そこに観客の創造力が加わることでより作品が完成していく。

音楽をデトロイト・テクノの重鎮ジェフ・ミルズと、尺八演奏家でありながら、多彩な音楽を創り出す土井啓輔が手掛け、そのことにより、舞踏、舞踊、演劇ファンのみならず、音楽ファンをも観客として動員できた。

東日本大震災以降、劇場に足を運ぶ人が減少したと感じていたが、このような状況下であるからこそ、個々人が舞台芸術を鑑賞することを大切に思っているという声が多く聞かれ、舞台芸術が日常生活を営む中で、人々の心に豊かな創造力を与えることを感じる事が出来た公演であった。



▲大駱駝艦・天賦典式 創立 40 周年公演「ウイルス」



▲大駱駝艦・天賦典式 創立 40 周年公演「ウイルス」

助成を受けて

助成により、稽古に集中して作品作りが行えた。新たなる音楽家に加わることで、音楽ファンをも取り込めたことなど、舞踏の門戸を拡げることができ、この時代を代表する作品だと語り継がれるであろう画期的な作品とすることができた。

キャメルアーツ株式会社

〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 2-1-18 コスモ吉祥寺北町 B1
Tel:0422-21-4982 URL:<http://www.dairakudakan.com/>

19 文学座アトリエの会 「NASZA KLASA」

株式会社文学座

助成金額 5,000 千円

活動概要

株式会社文学座は、年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けています。

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| ○文学座公演 | 「エゲリア」 | 助成金額：9,900 千円 |
| ○文学座公演 | 「タネも仕掛けも」 | 助成金額：10,200 千円 |
| ○文学座アトリエの会 | 「海的眼鏡」 | 助成金額：4,100 千円 |
| ○文学座公演 | 「セールスマンの死」 | 助成金額：9,800 千円 |

文学座は、昭和 12 年の結成であり、第二次世界大戦を生き抜き、戦後半世紀をすぎた今日まで、様々な危機に直面しながらも持続的な演劇創造活動を展開してきた。また、戦後にアトリエが落成されると、「アトリエの会」として小空間での公演を活動の二本目の柱に据え、「現代演劇の前衛」として経済的負担に臆することなく、実験的、冒険的な試みに挑戦してきた。

実存主義演劇、不条理劇、アンダーグラウンド演劇にも敏感に反応しながら、常に時代の先端を行く演劇活動の道を歩み、現在もなお精力的に活動をしている。

「NASZA KLASA」は、ポーランド人が 20 世紀に体験した歴史、ユダヤ人が体験した歴史、様々な状況下で生きた個人の歴史である。それらを 10 人のクラスメイトの歴史として描いた本作は、基本的に俳優が証言するように語っていく形式で構成され、時に集団としてシーンを客観視し、また個々人の語りに戻り、語りながら対立関係や状況を作り出していくという演劇的手法で、力強くシンプルに表現された。俳優 10 人による言葉と身体表現にのみ特化した斬新な演劇的空間の構成は、観客の想像力に強く働きかけるものとなった。

観客の年齢層も幅広く、日程の後半は連日満席の状態となった。



▲文学座アトリエの会「NASZA KLASA」(撮影：飯田研紀)



▲文学座アトリエの会「NASZA KLASA」(撮影：飯田研紀)

助成を受けて

助成を受けたことにより、作品全体のレベルをキープするための必要な経費を十分に得ることができた。結果として自由な発想で作品を創造することが出来たことが、「NASZA KLASA」という一筋縄ではいかない難作の成功につながった。

株式会社文学座

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 10

Tel:03-3351-7265 URL:<http://www.bungakuza.com>

20 演劇公演「泳ぐ機関車」

劇団 棧敷童子

助成金額 5,800 千円

活動概要

日本に古くから伝わる魔物「ざしきわらし」から命名した劇団「棧敷童子」は、平成 11 年に結成された劇団で、何より自分達自身が純粋な信念で芝居をつくり、「劇場を訪れる全ての人々に見え、そして全ての人々の心に存在すること」を目指し、劇団を運営してきた。自分達の追い求める風景を実現させるために、劇場となる空間から選び、時間を費やし劇団員自ら舞台セットを製作する。さらに音響、照明が加わった三位一体となった美しさを追求している。

土俗的で幻想味にあふれる伝奇ロマンを作る劇作家で、演出家、舞台美術家でもある主宰の東憲司は、生まれ育った炭鉱町や山間、海辺の集落などに生きる人々の群像劇を作り続けてきた。

平成 24 年度助成対象活動となった「泳ぐ機関車」は、「泥花」、「オバケの太陽」に続く炭鉱を舞台にした三部作の最終章であり、最終章にふさわしく“あしたに向かって生きていく”というメッセージが十分に表現された舞台となった。

巨大な機関車などの大仕掛けは圧巻であり、舞台を埋めるひまわりなど心に残る情景も作りだした。舞台装置に負けず、個々の役者も新しい役どころに挑戦し、著しく成長することができた。



▲泳ぐ機関車（撮影：長田勇）



▲泳ぐ機関車（撮影：長田勇）

助成を受けて

助成を受けることができ、劇団の特徴ともなっている舞台美術の全てを妥協することなく創りあげることができた。舞台装置、舞台美術に対する興味から舞台鑑賞に訪れる観客もおり、演劇に関心をもってもらうことにも成功した。

劇団 棧敷童子

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 5-1-18 西新宿パレスビル地下 1 階

Tel:03-3375-8288 URL:<http://www8.plala.or.jp/s-douji/>

21 大槻能楽堂自主公演能 能の魅力を探るシリーズ 日本探訪「日本の歩んだ道・日本人の想い」

公益財団法人大槻能楽堂

助成金額 4,300 千円

活動概要

公益財団法人大槻能楽堂は、年間活動支援型として以下の活動にも助成を受けています。

- 大槻能楽堂自主公演能 ナイトシアター 助成金額：1,600 千円
- 大槻能楽堂自主公演能 改築三十周年記念 新春公演 助成金額：2,700 千円
- 大槻能楽堂自主公演能 研究公演 助成金額：600 千円

大槻能楽堂は昭和 10 年に建設。昭和 23 年に財団法人大槻清韻会能楽堂を設立し活動が続けていたが、建物老朽化のため昭和 58 年に再建した。再建を機に、能楽の普及・振興を図るため、広く一般の観客層を対象とした自主公演能を企画し、質が高くかつ低廉な料金の公演を年間約 20 回続けている。

自主公演能は、年間テーマに沿った能の上演と、多彩な角度から能を捉えた講演から成る「能の魅力を探るシリーズ」、初心者にも親しみやすく、また仕事帰りに気軽に能楽鑑賞が出来る「ナイトシアター」、新年の幕開けを飾る「新春公演」、廃曲や古演出を研究し検証する「研究公演」などがある。

平成 24 年度助成対象活動として採択された「能の魅力を探るシリーズ」は、毎年継続して視点の異なるテーマで公演を行っているもので、平成 24 年度は日本探訪という壮大なテーマでの公演となった。出演者には能楽界各流派の著名な演者はもとより全国各地から有望な中堅・若手を揃え、多彩な演能・演者を鑑賞できるように編成した。また、講演は、研究者のみならず様々なジャンルから招いた講師陣による独自のアプローチ—能の背景となった物語・時代・人々・思想など—により、単なる解説の枠を越えて、年間を通じて能楽にとどまらず、総合的な知識や感覚も提供してきた。さらに、「ナイトシアター」と連動した内容とし、観客に年間テーマをより深く捉えてもらえる企画となった。

公演のほか、初心者のための事前レクチャーや愛好者のためのバックステージツアーを実施し、広い層の観客へ開かれた活動を行った。



▲能「高砂 八段之舞」シテ：上野雄三



▲能「榎天狗」シテ：多久島利之・大槻文藏

助成を受けて

年間活動支援型の助成活動ということで、出演者の公演に対しての出演意欲と責任が増し、質の高い内容の公演と成った。観客にも全国的に信用のおける公演と認識された。また、入場料が低く抑えられ、能楽の普及に貢献できた。

公益財団法人大槻能楽堂

〒540-0005 大阪府大阪市中央区上町 A 番 7 号

Tel:06-6761-8055 URL:<http://www.noh-kyogen.com/>

22 創立 20 周年特別記念公演 SKD・OG スタスレビューファンタジー 2012

有限会社スタス

助成金額 5,300 千円

活動概要

かつて大衆芸能の花形と言われた東京のレビュー集団の一つ、松竹歌劇団（SKD）が解散し、その出身者を中心に、平成 4 年、レビュー集団「スタス」が結成された。毎年大きな舞台公演と数々のイベントを実施し、平成 9 年に有限会社スタスとなった。現在に至るまで、浅草公会堂公演、全国の劇場公演、長野オリンピック前年祭や日中国交正常化 35 周年中国広州公演など、積極的に活動を展開している。

平成 24 年度助成対象活動として採択されたスタス創立 20 周年特別記念公演は、ラテン・ジャズ・ロック、あらゆる分野の心に残る懐かしい名曲や新しい現代音楽でのダンスシーンやスタスレビューの 20 年間での名シーンでの構成であった。

日本民謡のレビュー化、歌舞伎連獅子からの和のラインダンス、タンゴの新日舞など、SKD レビューの特長を活かした、総勢 51 名での舞台は、バラエティに富んだレビューシーンの連続となった。

SKD レビューを絶やしたくないとの思いから続けた 20 年間だったが、SKD より引き継いだレビューは、20 年という時を経てスタスレビューとなり、ダンスや唄で技術的にも向上しチームワークも発展している。

レビューをご存じの方々からは、「20 年の集大成らしい重厚な舞台」と、また、初めてレビューに触れたの方々からは、「楽しくてエネルギッシュなショー」と、今後の活動における力強い支えとなる感想を得た。



▲アイ ラブ レビュー



▲ラグタイム・ライン

助成を受けて

助成を受けたことで、稽古に十分な時間をかけることができた。また、舞台装置、衣装、小道具なども含め、20 年の集大成にふさわしい重厚な舞台を作り上げることができた。

有限会社スタス

〒111-0034 東京都台東区雷門 1-16-11 チドリ屋ビル 202

Tel:03-5828-3891 URL:<http://skd-og-stas.j-bolero.com/>

23 奇跡のリンゴ

東宝株式会社

助成金額 20,000 千円

活動概要

平成 18 年、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」で紹介され、大反響をよんだ実在のリンゴ農家・木村秋則さんが、絶対不可能と言われたリンゴの無農薬栽培に挑み奇跡を起こすまでの足かけ 11 年を映画化した。

原作は、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」の制作班が監修し、石川拓治氏が執筆した『奇跡のリンゴ「絶対不可能」を覆した農家 木村秋則の記録』（幻冬舎文庫）である。脚本は、吉田実似と中村義洋監督の共同執筆、音楽は久石譲が担当した。

主人公の木村さんを阿部サダヲ、その妻を菅野美穂、友人を池内博之、木村さんの両親を伊武雅刀と原田美枝子、妻の父を山崎努が演じ、撮影は全編オール弘前ロケによる 2 時間 9 分の作品である。

日本最大のリンゴ畑が広がる青森県中津軽郡、岩木山の麓のリンゴ農家の木村さんは、リンゴの生産に不可欠な農薬が、妻美栄子さんの体を蝕んでいることを知る。そこで、絶対不可能、“神の領域”と言われていた「リンゴの無農薬栽培」に挑む決意をする。1 年間に十数回にも及ぶ農薬散布を行ってさえも困難なリンゴ栽培を、農薬なしに成し遂げようというのは、親兄弟、友人、周囲の誰が見ても狂気の沙汰であった。孤立無援の状態の中、家族だけは、そんな彼を応援し続ける。

私財を投げ打ち、数えきれない失敗を重ね、10 年にわたり挑戦を続けるが、無農薬のリンゴが実ることはなかった。周囲からは白い目で見られ、家族は十分な食事もとれないほどの貧困に打ちひしがれるが、周囲の人々の圧力に屈せず、自殺に追い込まれながらも踏み止まり、ついに常識を覆す真実を発見し、奇跡を起こした。

この映画は、ひたすらに“一つのもの”を信じて進み続ける生き方、人との絆、家族愛など様々な切り口で、東日本大震災を経験した日本人に、人が生きることの原点を訴えかけた作品となっている。



▲「奇跡のリンゴ」撮影風景



▲「奇跡のリンゴ」撮影風景

助成を受けて

文化芸術振興費補助金の助成を受けられたことで、映画に対する社会的な声望や信頼を得ただけではなく、効果的な宣伝展開を行うことができた。困難にめげず、家族に支えられて、目標に向かっていく主人公の姿を通し、あきらめないことの大切さと家族愛の素晴らしさを訴えかける映画を完成することができた。

東宝株式会社

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-2-2

Tel:03-3591-7521 URL:<http://www.toho.co.jp/>

24 天のしずく 辰巳芳子 いのちのスープ

株式会社環境テレビトラスト

助成金額 5,000千円

活動概要

地球規模の異常気象や人口問題などで、食糧輸入が困難になる時代が迫っている。この映画は、生きる力を支える食の大切さを訴え続けている料理研究家・辰巳芳子の魂を、河邑厚徳監督が映像化したドキュメンタリー映画である。

脳梗塞で倒れ、嚥下障害（えんげしょうがい）により食べる楽しみを奪われた父の最後の日々を、母と娘が工夫した様々なスープが支えた。彼女が病床の父のために工夫を凝らして作り続けたスープは、やがて人々を癒す「いのちのスープ」と呼ばれるようになり、多くの人々が深い関心を寄せるようになる。

スープの食材となる旬の作物は、繊細で美しい自然風土の中、作物への誠実な志で食材を育てる全国の生産者たちによって提供される。辰巳さんは、その素材を慈しみ、素材が喜ぶように丁寧にスープにしていける。こうして出来上がったスープは、ボランティアによって家庭や施設、病院に届けられ、食べる楽しみを提供していく。このうちのどれが欠けても完成しない交響曲のように、それぞれがいのちの響きを奏でていく。

「食は自然の恵み」、「土は天からの言葉」など、環境に対する啓蒙をうたっているが、根底にあるのは、辰巳さんの「愛することは生きること」という言葉に集約されている。すべてのものの命に対する深い思いやりと優しさである。

今、自然の恵みや伝統に培われた日本料理のおいしさ、美しさが世界中の称賛を受けている。しかし、日本人はその原点を忘れてはいないか。世代を超えて様々な地域や家庭の中で、長い歴史を経て伝えられてきた食の知恵は、日本人こそが未来へ伝えなければならない大切な遺産である。



▲スープを作る 辰巳芳子



▲裏ごしをする手

助成を受けて

日本の農業は、農業従事者の高齢化、後継者不足等から疲弊・衰退を続け、食料自給率は低下している。その一方で食品廃棄率は高い。助成を受けて、食に対する認識の欠如から来る食を軽視する傾向に警鐘をならし、農と食を通して、人の命の尊厳を改めて考え直す記録映画を完成させることができた。

株式会社環境テレビトラスト

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-3-15 大橋御苑ビル 7F

Tel:03-3352-0680 URL:http://tennoshizuku.com

25 おおかみこどもの雨と雪

株式会社地図

助成金額 20,000 千円

活動概要

『おおかみこどもの雨と雪』は、『時をかける少女』、『サマーウォーズ』などで高い評価を受けた細田守監督の長編オリジナルアニメーション映画である。

19歳の大学生・花は、“おおかみおとこ”と運命的な恋に落ちる。やがて雪と雨という二人の“おおかみこども”を授かるものの、突如おとずれた、父親である“おおかみおとこ”の死。まだ幼い“おおかみこども”を抱えた花は、人間かおおかみか、どちらの生き方も選べるように、美しくも人里離れた田舎の中で二人の子供を育てる決意を固める。花と子供達との13年間にわたる親子の物語。

細田守監督自らが脚本・原作も手掛け、共同脚本として奥寺佐渡子、キャラクターデザインを貞本義行と、前二作からの常連のスタッフが再集結した。

本作では、一人の女性が恋愛・結婚・子育てを通じて成長する姿と、その子供達が誕生から自分の生きる道を見つけて自立するまでの過程を、“おおかみおとこ”と人間の間にも生まれた“おおかみこども”という、斬新な設定によって描かれた作品である。

二人の“おおかみこども”が成長するにつれて直面する「おおかみとして生きるか」「人間として生きるか」という選択は、私たちも人生の様々な局面において直面する、人生の選択と同じ事である。様々な困難に立ち向かいながら、一生懸命に生きるふたりの“おおかみこども”と母親の姿は、観る人全てに勇気を与えてくれるだろう。

第36回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞、第16回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞、第45回シッチェス・カタロニア国際映画祭アニメーション部門・最優秀長編作品賞など多数受賞。

また、すでに80の国と地域での配給が決定し、前二作同様、国内外で高い評価を得ている。



▲「おおかみこどもの雨と雪」ポスター絵



▲キャラクターデザイン

助成を受けて

私達は、まだまだ無限に広がるアニメーション映画の可能性に対し、常に新しいテーマやモチーフ、そして表現にチャレンジをし、公共の利益に叶う作品を作っていければと思っている。『おおかみこどもの雨と雪』では、親を主人公に、子育てや親と子の成長、また、自立といったテーマなどにチャレンジをした。

助成を受けたことで、そのチャレンジを実現させることができ、表現力と躍動感あるアニメーション映画を製作することができた。

株式会社地図

URL:<http://www.studio-chizu.jp/>

26 WONDER

合同会社 CALF

助成金額 1,000 千円

活動概要

「細胞アニメーション」といわれる細胞をモチーフにした抽象アニメーション作品を中心に、多くの作品を生み出し、精力的に作品を発表してきた水江未来が、アニメーション制作 13 年間の集大成として取り組んだのが『WONDER』である。

本作品は、トータル 8,760 枚の連続した絵で構成された、365 秒間の繰り返し無しのアニメーション映画である。

水江未来が頭の中で思い描いた抽象的なイメージや動きを、時間軸に沿って 1 枚 1 枚手描きというアナログな手法で作画していく制作方法をとることによって、アニメーターが思い描いたイメージをダイレクトにアニメーションとして映像化することを目指した。

セリフや明確なストーリーラインの無い、ノンナラティブなアニメーションにとって、音は非常に重要で、作品の完成度に大きく関わってくる。特に、本作品の場合 1 秒間に 24 枚の画を用いており情報量が多いため、細やかな動きや僅かな色の変化の一つ一つにまで意識が行き届いている音楽が必要である。監督が出来るだけ縛られるものの無い状態で、自由に画のイメージを膨らませることを大切にされたため、すべての作画を終えてから音楽の制作を行った。



▲「wonder」一場面



▲「wonder」一場面

音楽を担当したのは、ロケット・マツ率いる 14 人編成のアコースティックオーケストラ的なグループとして独自のサウンドを築くパスカルズである。パスカルズは、映像と音楽がうまく混ざり合うもの、見ただけで気持ちのいいものを作りたいという監督の制作意図を深く読み解き、バンジョーやギター、バイオリン、リコーダーなどの、10 種類を超える様々な楽器による生演奏を行った。

音楽収録では、演奏しては映像と合わせて確認、映像と合わせては音楽を収録するということを何度も繰り返し、音楽と映像が気持ちよく交わる具合を探っていった。

画が動くから音が生きているのか、音が画を動かしているのか、音楽が加わることで作品はさらに発展し、監督の想定したイメージを超えて、手描きのドローイングと生楽器の生み出す音楽が見事に反応し合った魅力的なアニメーション映画に仕上がった。

助成を受けて

助成を受けることで、ミニマムな制作チームが、デジタルシネマ化が急速に進む中、あえてすべての作画を手描きでおこない、生楽器の音楽を付けるという極めて贅沢で実験的なプロジェクトを達成することができた。

合同会社 CALF

〒107-0052 東京都港区赤坂 6-16-11 浜ビル 3A

Tel:03-6277-7614 URL:http://calf.jp



芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化の振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行うことを目的としています。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観のセミナー、資料収集・作成、普及啓発による保存・活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的交流、復活・復元伝承、記録作成による保存・活用活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存・伝承・公開・記録作成、及び伝統工芸技術の復元による保存・活用活動

※詳細は、ホームページ <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。



文化芸術振興費補助金による助成

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動や優れた日本映画の製作活動を助成しています。

助成対象活動

◆トップレベルの芸術団体が行う舞台芸術活動

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

- 支援の形態には、活動毎に助成を行う公演単位支援型と、3年間の継続助成を行う年間活動支援型があります。

◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画製作

※詳細は、ホームページ <http://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html> をご覧ください。

発行日 _____
平成25年9月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎ 03-3265-6302
URL <http://www.ntjjac.go.jp/kikin.html>

